



1982年慶応義塾大学卒業後、アメリカ銀行に入行。トレーディング業務に従事し、1989年バイスプレジデント。1997年日興証券に移り、1999年日興シティ信託銀行為替資金部次長。2002年金融コンサルティング会社アセンダントを設立、取締役役に就任。

■オートチャーティストとは

オートチャーティストとは SaxoTraderGO で取引できる商品のチャート分析を自動で行い、確率が高いと考えられる売買戦略を表示する取引支援ツールです。チャート分析はテクニカル分析でも最も基本かつ重要なチャートパターン（各種の反転、継続パターン）、キーレベルパターン（トレンドライン）、フィボナッチパターン（リトレースメント等）が完成した場合、あるいは形成中に一覧表示されます。一覧表示では、各種パターンの詳細、取引を行う場合のターゲット等の情報が表示され、表示する情報をフィルターで絞り込むことが可能です。この売買戦略レポートでは、この一覧表示の中から翌週にも有効と考えられる通貨ペアを毎週3通貨ペア、ピックアップしていくこととします。

- [10分でできるオートチャーティスト・クイックマニュアル](#)
- [オートチャーティスト・完全ガイド](#)
- [オートチャーティスト・チャートパターン分析入門](#)

■先週のレビュー

まず、前回のストラテジの振り返りですが、先週がゴールデンウィークで配信をお休みした関係で2週前のストラテジとなります。また2週間という時間を考慮し前回のストラテジはすべて日足ベースのストラテジとなっています。

（1）XAUUSD の売り（シグナル点灯 4月24日）TP=1307.06、SL=1365.34

先週執筆時点のレートが 1323.98、その後（4月26日東京後場～5月10日東京前場、以下同）のレンジは 1301.73～1326.60 と 4月26日の執筆時点直後から XAUUSD は下降の動きとなりました。米金利上昇によるドル買いの動きが XAUUSD でも金売りの動きとなって表れたと言ってよいでしょう。TP の水準 1307.06 には 5月1日海外市場で到達し、1取引単位あたり +16.92 ドルの利益となります。金の場合あまり pips という表現は一般的ではないものの、ユーロ円やポンド円のおよそ 10 倍のレートですから、169.2 pips の利益というイメージです。

(2) GBPCHF の売り (シグナル点灯 4 月 21 日) TP=1.3410、SL=1.3856

先週執筆時点のレートが 1.37055、その後のレンジは 1.35125~1.37920 でした。方向としては GBPCHF の売りは正しかったのですが、本日時点で TP にも SL にも到達していません。こちらまでと同様に執筆時点のレートで仕切ることとします。現在のレートが 1.36174 なので +88.1pips の利益となりました。日足ベースでは比較的長めのストラテジとなりますから、このまま保持していても良さそうではありますが、本日 10 日には英中銀 MPC もありますので、東京時間で利食っておくこととしました。

(3) NZDCHF の売り (シグナル点灯 4 月 26 日) TP=0.6887、SL=0.7122

先週執筆時点のレートが 0.69444、その後のレンジは 0.69343~0.70499 と、執筆時点直後からじり高となった後、直近では押す動きとなっていますが、TP にも SL にもどちらにも到達していません。こちらで執筆時点のレートで仕切ることとします。現在のレートが 0.69619 なので -17.5pips の損失となりました。わずかな損失ではありますが、高値圏から押してきたのはラッキーだったかもしれません。今回は 2 週間でのストラテジでしたが、トータルでは十分にプラスで終わることができました。

■平均利益損失比と破産確率

今週はシステムトレードでよく目にする平均利益損失比 (ペイオフレシオ) と破産確率について簡単にお話ししたいと思います。オートチャートリストと破産確率はいったい何の関係があるのだらうと思われた方もいると思いますが、今週のピックアップではシグナル点灯時から執筆時にレートが変動したことで、オリジナルのエントリー水準よりもかなり良いレートでの取引をすることができました。最初に表をご覧ください。

5%	平均利益損失比								
勝率	0.5	0.75	1	1.25	1.5	1.75	2	2.25	2.5
30%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	45%
35%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	37%	9%	3%
40%	100%	100%	100%	100%	100%	10%	2%	1%	0%
45%	100%	100%	100%	67%	4%	0%	0%	0%	0%
50%	100%	100%	100%	2%	0%	0%	0%	0%	0%
55%	100%	100%	2%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
60%	100%	7%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
65%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
70%	2%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
75%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
80%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

いいレートで取引が出来たから勝ちやすいということはありませんが、一般論として利益と損失の比率がどのように変化すると理論的な破産確率がどのように変化するかを知っておくことはよいことです。この破産確率表はそれを知るための表となっています。この表は、もともとギャンブル（カジノ）における破産確率表で、相手が大きい場合に使われる確率表です。左上に 5% とあるのは、1 回あたりの勝負に持っているお金の 5% をベットするという意味です。

仮にジャンケンで 1 : 1 の勝負という場合には勝率 50% で買っても負けても 1 というお金が動くのであれば破産確率は 50% という計算が成り立ちますが、この表を見ると破産確率は 100% となっています。つまり資金が無尽蔵にあるカジノのような巨大な相手との勝負では、いつかは必ず負けるということが言えるわけです。これは FX の場合でも同じです。

次に今と同じ勝率 50% と平均利益損失比が 1 のところから、ひとつ右のセルをご覧ください。ここは勝率 50% で平均利益損失比が 1.25 を示します。簡単に言ってしまうと、100 万円の証拠金があつて、負けた場合（損失）は 5 万円、勝った場合（利益）は 6.25 万円ということと同じです。いっきに破産確率が 2% へと低下していることがわかりますが、この表では緑の部分が安全圏です。

つまり、TP と SL の距離を 1.25 倍にするだけで、急激に証拠金を失う確率が下がるという例ですね。今週のピックアップでは TP と SL の距離がかなり離れていることで、資金管理という観点ではかなり有利になっているということがお分かりいただけると思います今週のコラムとさせていただきます。

こうした破産確率やシステムトレードにおける計算は知っておくと、実際に取引を継続していく際に役立ちます。ある程度の取引量がある場合には、勝率と平均利益損失比から自身の破産確率が安全圏にあるかどうか、定期的にチェックするべきです。なお、証拠金のうち 1 回の取引でどの程度をリスクにさらすのかによって、計算結果は変わります。左上の 5% 部分が上がれば、破産確率も上がりますし、下がれば破産確率は下がります。

この表では 1 回にさらすリスクは 5% を超えるべきではないとの考えから、5% をベースにして計算したものを表にまとめてあります。通常は 3% 以下、つまり証拠金 100 万円あたり、1 回の想定最大損失額は 3 万円以下と考えておくべきだと思います。

■今週の特徴

今週はいつも通り 4 時間足によるピックアップに戻ります。今週は (1) NZDJPY の買い、(2) EURAUD の買い、(3) EURGBP の売りという 3 つをピックアップしました。

(1) と (2) に共通なことはシグナル点灯直後に逆へ動いたことから SL へは近づいたものの、SL がついた時の損失がかなり限定的になるというものです。これは上記のコラムで詳しく書いていますので、最終的に思惑通りに動いた場合には相当に有利なストラテジとなります。

(2) と (3) の共通点は EUR クロスという点です。しかし EUR は年初来安値を更新し、まだ下げそうと思う反面、もういいところではないかと思う気持ちも出てきます。まだはもう、もうはまだ、わからない時にはその部分の取引を相殺してリスク軽減です。今回は EUR の部分を逆方向とすることで結果として GBPAUD のポジションとなっています。それでは、順に見て行きましょう。

■今週のピックアップ

(1) NZDJPY の買い



チャートパターンとしては「下降チャネル」の上抜けによる NZD 買いです。今朝早朝に NZ 中銀による金融政策で現状維持、将来的な利上げが一段と遠のいたとの思惑から直近の高値圏から大きく下げる動きとなっています。こうした場合、本来的にはチャートパターンも引き直しとなりますが、オートチャーティストではいったんシグナルが出たものは取り下げませんし、シグナルが出た水準に比べてかなり割安感があり、ストップがついても損失はほぼ無いという単純な理由でピックアップしてみました。

ただ、現状のレートが 75.997 とオリジナルの SL75.94 まで近すぎますので、このストラテジに関しては SL を 10 銭だけ下にずらして 75.84 とすることにします。このストラテジは 9 時間以内にグレーのゾーン（下端 76.95）をターゲットとする動きが指摘されています。

戦略：NZDJPY の買い（シグナル点灯 5 月 9 日）執筆時点 75.997

TP=76.95、SL=75.84（注：SL はオリジナルから 10 銭下げています）

（２）EURAUD の買い



チャートパターンとしては「下降チャンネル」の上抜けによる EUR 買いです。このストラテジもシグナルが点灯した直後に下げているので、元々の状態よりも TP と SL の比率が執筆時点では有利となっています。オートチャーティストの場合、シグナル点灯時点で TP と SL の比率が 1：1 でセットされますが、過去の勝率を勘案してそれでもトータルでは勝てるという発想です。

今回の場合、オリジナルのエントリー価格が 1.5931 でしたから、執筆時点 1.58742 で計算すると、TP：SL の比率は 4.89：1 にまで上昇することになります。こちらは 21 時間以内にグレーのゾーン（下端 1.6017）をターゲットとする動きが指摘されています。

戦略：EURAUD の買い（シグナル点灯 5 月 9 日）執筆時点 1.58742

TP=1.6017、SL=1.5845

(3) EURGBP の売り



チャートパターンとしては「上昇チャンネル」の下抜けによる EUR 売りです。EURAUD が EUR 買い、EURGBP が EUR 売りと方向性が異なりますが、年初来安値を連日更新しトレンド的には下降トレンドにあるものの、値幅的にはそろそろ反発もあり得るという見方から、あえて EUR のポジションを相殺する組み合わせとしてみました。結果として GBPAUD での GBP 買いと同じことになります。33 時間以内にグレーのゾーン（上端 0.8704）をターゲットとする動きが指摘されています。

戦略：EURGBP の売り（シグナル点灯 5 月 9 日）執筆時点 0.87522

TP=0.8704、SL=0.8827

【本レポートについてのご注意】

■本レポートは、投資判断の参考となるべき情報提供のみを目的としたものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。

■本レポートは、作成時点において執筆者およびサクソバンク証券（以下「当社」といいます。）が信頼できると判断した情報やデータ等に基づいて作成されていますが、執筆者および当社はその正確性、完全性等を保証するものではありません。また、本レポートに記載の情報は作成時点のものであり、予告なしに変更することがあります。

■本レポート内で示される意見は執筆者によるものであり、当社の考えを反映するものではありません。また、これらはあくまでも参考として申し述べたものであり、推奨を意味せず、また、いずれの記述も将来の傾向、数値、投資成果等を示唆もしくは保証するものではありません。

■お取引は、取引説明書および約款をよくお読みいただき、それらの内容をご理解のうえ、ご自身の判断と責任において行ってください。本レポートの利用により生じたいかなる損害についても、執筆者および当社は責任を負いません。

■本レポートの全部か一部かを問わず、無断での転用、複製、再配信、ウェブサイトへの投稿や掲載等を行 証券株式会社
うことはできません。